

令和6年度（2か年計画2年次）
帯広市立豊成小学校
研究概要

研究主題

「教わる」から「学ぶ」
授業への転換

教師としての意識改革

子どもの学びを
待つ、見守る



(子どもの前ではなく)
横・後ろに立つ



	<低学年>	<中学年>	<高学年>	
仮説① 課題設定の工夫	①ゴールの見える課題設定（本時のゴール、単元全体のゴール） 段階的な単元計画、適切な条件の設定（自力解決、交流、発表の仕方など）、		①ゴール	
	②「やってみよう」と思える課題設定の工夫 低学年～日常生活と関わらせ、意欲のもてる課題	②「やってみよう」と思える課題設定の工夫 中・高学年～児童の疑問から問いを生み課題につなげる、振り返りを生かして次の問いにつなげる		②課題設定の工夫
仮説② 学びの場の保障	③児童が主体となって活動する時間の保障 低学年 20～30分	③児童が主体となって活動する時間の保障 中・高学年～30～40分		③時間の保障
	④自己決定、自己選択の場の保障 低学年～取り組む題材 など	④自己決定、自己選択の場の保障 中・高学年～取り組みたいテーマ、課題解決のための手立て（表現方法、調査方法、個人 or 集団）		④自己決定
	⑤主体的に学ぶための「アイテム」を持たせる 低学年～効果的なワークシート など	⑤主体的に学ぶための「アイテム」を持たせる 中・高学年～話し方や読み方・書き方など「学び方」の指導、段階的な単元計画		⑤アイテム
	⑥子どもたちが安心して学習に取り組める手立て 学習の見通しが明確に持てる、個々の学習状況の把握、児童主体の活動中の教師からの関わり（ヒントカードなど）、再チャレンジの機会の保障		⑥安心できる手立て	
	⑦意見の共有、個→全体へ収束させる手立て 低学年～挙手での発表、交流の経験を積む	⑦意見の共有、個→全体へ収束させる手立て 中・高学年～全体交流の進行（指名計画）、小集団交流の目的の明確化		⑦共有

※特別支援ブロックは、各児童や学級の実態に応じて取組の段階を適宜選択する。



豊成小学校「学ぶ」授業 系統表(案)



	課題を考えよう(課題設定)	考えをもうごう(個人思考)	話し合おう・解決しよう(全体交流)	広げよう・深めよう(振り返り)
低学年	目標 何を学ぶのかを考えよう！ ◎授業の中で何を考えるのかということや何がポイントになるのかということを先生や友達と一緒に考えることができる。 子どもの思考 ・今日は〇〇について考えるんだね。 ・〇〇ができるようになるぞ。 ・〇〇を上手にしたいな。	目標 じっくり考えよう！ ◎問題や課題を解決するために、指示された方法で個人で考えたり、友達と一緒に考えたりすることができる。 ◎友達と教え合ったり、協力したりして問題や課題を解決しようと思えることができる。 ◎困っている友達に声をかけて一緒に考えることができる。 子どもの思考 ・〇〇さんと考えが似ているから、一緒に考えてみようかな。	目標 考えを伝えたり、聞いたりしよう！ ◎自分の考えを、相手を意識して伝えたり、友達の話をしっかりと聞いたりすることができる。 ◎友達の話に関心をもち、いろいろな考え方があることに気付くことができる。 子どもの思考 ・〇〇さんは、自分と同じ考えだな。 ・〇〇さんは、自分と違う考えだな。 ・いろいろな考えがあるんだな。	目標 自分の今日の学習を振り返ろう！ ◎授業の様子を振り返り、自分のよかったところや次は頑張りたいこと、わかったことなどを考え、表現することができる。 子どもの思考 ・今日の学習は、よくできたから①だな。 ・今日こんなことを学習して、〇〇ということがわかってよかった。 ・今日は〇〇ができなかったから、次はできるようにしたい。
中学年	目標 これまでの学習との違いを見つけよう！ ◎問題を讀んだり、活動内容を把握したりしたときに、前時までと違う部分は何か、また何を意識して活動するのかを先生や友達と一緒に考え、課題を設定することができる。 子どもの思考 ・昨日勉強した方法が使えないぞ？このときはどうするかを考えたいな。 ・どうすればもっと上手にできるのかな？	目標 解決する方法を自分で選択しよう！ ◎問題や課題を解決するために、用意されたアイテムや学習形態を選択・決定することができる。 子どもの思考 ・誰と学習しよう。(個人・ペア・グループ) ・何をしよう。(ノート・具体物・タブレット) ◎友達と教え合ったり、協力したりして問題や課題を解決することができる。	目標 自分と友達の考えの共通点や違いを見つけよう！ ◎友達と自分、互いの意見の共通点や相違点に着目して、話し合うことができる。 子どもの思考 ・〇〇さんと同じ考えで～です。 ・〇〇さんとは違う考えで～です。 ◎自分の考えを説明したり、質問したりして課題解決に向かっていくことができる。	目標 考えの広がりや深まりを感じよう！ ◎自分の学習について振り返り、自分の考えの変わったところや深まったところを文章に表すことができる。 子どもの思考 ・初めは〇〇だと思っていたけど、〇〇さんの意見を聞いて〇〇に変わりました。 ・〇〇さんの意見を聞いて、やっぱり〇〇だと思いました。
高学年	目標 自分たちで課題を設定しよう！ ◎問題を讀んだり、活動内容を把握したりしたときにこれまでの学習との違いやズレに気付く、何について考えるのかを明確にした課題を自分自身で設定することができる。 子どもの思考 ・〇〇をよりよくする方法が他にもありそうだから、ほくはそれを考えてみたいな。	目標 解決する方法を自分たちで考えよう！ ◎問題や課題をどのように解決するのかを自分たちで考えることができる。 子どもの思考 ・誰と学習しよう。(個人・ペア・グループ) ・何をしよう。(ノート・具体物・タブレット) ◎友達と教え合ったり、協力したりしてよりよい方法や手段を構築することができる。	目標 目的に応じた話し合いをしよう！ ◎互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。 ◎課題解決のために目的を意識して、計画的に話し合いを進めることができる。 子どもの思考 ・私は〇〇と考えましたが、〇〇さんはなぜ、このように考えたのですか？	目標 学んだことを次の学習や生活に生かそう！ ◎自分の学習について振り返り、次の学習やこれからの生活に生かそうとすることができる。 子どもの思考 ・〇〇ということがわかった。〇〇な場面でも生かせると思うので、この考え方を大切にしたい。
自立活動・生活単元	目標 自分たちで課題を設定しよう！ ◎活動の中で挑戦したいこと等に付けたい力を決めることができる。 子どもの思考 ・〇〇に気を付けて活動しよう。 ・～ができるようになりたいな。	目標 めあてを意識して活動しよう！ ◎個人で取り組んだり、友達と協力したりして、目標達成に向けて活動する事ができる。 子どもの思考 ・めあてをクリアするために〇〇をしよう。やろう。 ・～ができるようになりたいな。	目標 今日の学習を振り返ろう！ ◎活動の様子を振り返り、できたことや次にやりたいことなどを考え、伝えることができる。 ◎集団での学習やこれからの生活に生かそうとする。 子どもの思考 ・～したら、〇〇することができた。～をがんばった。 ・次は、〇〇をやってみよう。 ・～なときにも、〇〇をやってみようと思う。	

昨年度の成果

子どもの変容（アンケートより）

主体性

やってみる、取り組む
わからないことを聞く
表現しようとする

自ら学ぶ

子ども主体の課題解決
教材・教具を活用

かかわり

助け合い、教え合い、仲良く
相手に伝える、伝え方

意欲

楽しい、できる
自己決定

教師の指導観の変容（アンケートより）

- ポイントをしぼった授業を意識するようになった！
- 任せる、委ねるができるようになってきた！
- 教師が喋りすぎないようになってきたし、意識している！
- 交流の場の設定をするようになった！
- 学びの時間を増やすようになった！
- 子どもの見取りが充実してきた！

標準学力調査の結果から

～「学ぶ」転換における学力への影響と
データからみる

豊成の子どもに身に付けさせたい力～

研究主題変更前R4年度と変更後R5年度の比較

現3年

	1年 国語			2年 国語		
	基礎	活用	記述	基礎	活用	記述
校内平均正答率	80.5	58.5	59.8	80.1	67.5	60.4
全国平均正答率	82.8	59.4	64.6	83.9	71.5	68.6
全国と豊成の差	-2.3	-0.9	-4.8	-3.8	-4	-8.2

1→2年

基礎	活用	記述
-1.5	-3.1	-3.4

	1年 算数			2年 算数		
	基礎	活用	記述	基礎	活用	記述
校内平均正答率	82.8	64.1	18.8	74.2	39.8	32.6
全国平均正答率	86.3	65.5	23.3	79.5	51.3	42.2
全国と豊成の差	-3.5	-1.4	-4.5	-5.3	-12	-9.6

1→2年

基礎	活用	記述
-1.8	-10	-5.1

現4年

	2年 国語			3年 国語		
	基礎	活用	記述	基礎	活用	記述
校内平均正答率	89.6	66.5	59.6	72.1	51.2	49.9
全国平均正答率	89.3	69.9	67.3	75.8	52.8	55
全国と豊成の差	0.3	-3.4	-7.7	-3.7	-1.6	-5.1

2→3年

基礎	活用	記述
-4	1.8	2.6

	2年 算数			3年 算数		
	基礎	活用	記述	基礎	活用	記述
校内平均正答率	74.6	42.9	29.2	73.1	56	22.5
全国平均正答率	76.8	47.2	30.6	78.5	57.5	28.6
全国と豊成の差	-2.2	-4.3	-1.4	-5.4	-1.5	-6.1

2→3年

基礎	活用	記述
-3.2	2.8	-4.7

現5年

	3年 国語			4年 国語		
	基礎	活用	記述	基礎	活用	記述
校内平均正答率	76	55.6	49.6	65.5	53.3	41.6
全国平均正答率	79.7	63	59.5	68.7	55.8	44.4
全国と豊成の差	-3.7	-7.4	-9.9	-3.2	-2.5	-2.8

3→4年

基礎	活用	記述
0.5	4.9	7.1

	3年 算数			4年 算数		
	基礎	活用	記述	基礎	活用	記述
校内平均正答率	68.6	59.3	33.3	59.1	46.6	17.1
全国平均正答率	77.1	62.4	43.6	69.6	57.3	25.3
全国と豊成の差	-8.5	-3.1	-10	-11	-11	-8.2

3→4年

基礎	活用	記述
-2	-7.6	2.1

現6年

	4年 国語			5年 国語		
	基礎	活用	記述	基礎	活用	記述
校内平均正答率	75	55.7	44.7	73.5	57.4	53.6
全国平均正答率	78.9	59.1	58.5	75.2	57.7	59.5
全国と豊成の差	-3.9	-3.4	-14	-1.7	-0.3	-5.9

4→5年

基礎	活用	記述
2.2	3.1	7.9

	4年 算数			5年 算数		
	基礎	活用	記述	基礎	活用	記述
校内平均正答率	66.1	50.2	25	57.2	35.8	14.4
全国平均正答率	74.2	55.5	27.8	66.4	38.5	15.7
全国と豊成の差	-8.1	-5.3	-2.8	-9.2	-2.7	-1.3

4→5年

基礎	活用	記述
-1.1	2.6	1.5

卒業生

	5年 国語			6年 国語		
	基礎	活用	記述	基礎	活用	記述
校内平均正答率	79.1	67.4	72.7	62.3	66.1	60.3
全国平均正答率	76.6	64.1	72.1	66.2	67.3	63.4
全国と豊成の差	2.5	3.3	0.6	-3.9	-1.2	-3.1

5→6年

基礎	活用	記述
-6.4	-4.5	-3.7

	5年 算数			6年 算数		
	基礎	活用	記述	基礎	活用	記述
校内平均正答率	60.4	45.3	22.9	67.2	58	24.8
全国平均正答率	66.5	43.3	22.6	79.2	61.9	32.3
全国と豊成の差	-6.1	2	0.3	-12	-3.9	-7.5

5→6年

基礎	活用	記述
-5.9	-5.9	-7.8

算出方法

調査では、前年度の同学年と比較した結果だったため、1年前の結果と比較をして同集団による変容をみた。全国平均正答率が、前年度平均正答率や市内校平均正答率に比べ、年度による差異が最も小さいと考えられるため、比較に用いた。

分析

- 「教わる」から「学ぶ」への転換により、活用や記述の向上に一定の効果があることがデータからわかる。
- 一方で、国語科に対しては一定の効果が見られるが、算数科については従来のように「習得」の部分の比重を大きくしたほうがよいことを現わしているかと考えられる。

見解

- 「活用」「記述」の得点率が上がったことから、児童に「粘り強さ」や「あきらめない力」が身に付いたと考えられる。研究において、自分が選んだテーマ別学習や、友達との協働的な学びによって、以前より学習参加をする児童が増え、問題に向き合う力が身に付いたのではないかと考えられる。
- 国語科の方が、本研究に取り組む際に有効かと考えられる。一方で、学年として算数科の研究に取り組んだ第5学年（第3学年）の「活用」の得点率が前年度より上がっているため、教師側も意識して取り組むことで効果があるとも考えられる。
- 学びは、基礎を土台とするため、基礎の力も身に付けさせたい。

現状を受け、
子どもをどう育てていく？
育てたい？

目指す子ども像

- ① 学ぶことの楽しさを実感し、
自ら進んで学ぶ子ども
- ② 社会性や自主性を身に付け、
生きる力を育む子ども

目指す子ども像について

「やってみたい」（前年度）

→ **学ぶことの楽しさを実感**（今年度）

昨年度と変更理由：

前年度の研究を経て、子どもたちの「やってみたい」の学習意欲が高まり、学習参加率も向上したとらえている。一方で、豊成の子どもには、インプットは得意だが、アウトプットが苦手という印象が未だにある。

これからの豊成の子どもたちには、基礎を土台として活用する力や、学びを自分の生活や学習に生かす力を身に付けて欲しい。

「学ぶことの楽しさを実感」することが普遍的な学びを育成するために必要であると考えた。

研究仮説 | 年次

①「やってみたい」と思える課題設定の工夫をすることで、自ら進んで学ぶ子どもを育てることができるだろう。

②学びの場の保障をすることで、安心して挑戦し、思いを実現しようとする子どもを育てることができるだろう。

研究仮説 2年次

①課題に対して一人一人が目標をもち、ゴールまでの道筋をつくることで、見通しをもって学ぶ子どもを育てることができるだろう。

②できた！わかった！成長した！を実感する手立てを講じることで、学ぶ楽しさや喜びを実感し、自ら進んで学ぶ子どもを育てることができるだろう。

今年度の研究

研究主題

「教わる」から「学ぶ」 授業への転換

～“できた!わかった!成長した!”を実感させる学びのデザイン～

研究計画

1年次 研究の導入期

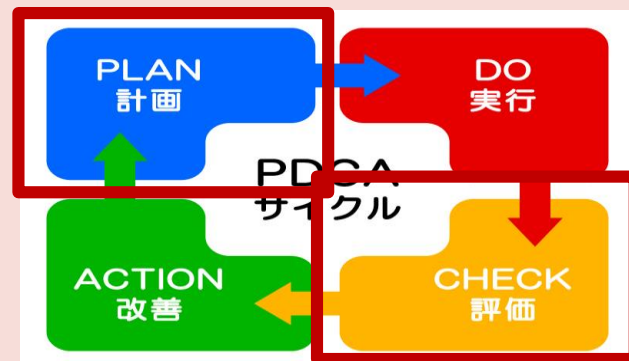
重点 ・ Plan (計画) ・ Do (実行)



子ども自身が計画を立てたり見通しをもったりする手立てのうち、自ら進んで実行する主体性を育む。

2年次 研究の充実期

重点 ・ Plan (計画) ・ Check (評価)



子ども自身が計画を立て、見通しをもって学ぶ力を育む。

子ども自身が自己評価をし、ふり返りの視点をもって自分の考えを広げ深める力を養う。

サブテーマについて

学ぶことの楽しさ



～“できた!わかった!成長した!”を実感させる**学びのデザイン**～



- ①個別目標
 - ②ゴールまでの道筋
 - ③ふりかえり
- など

今年度、研究で深めていく。

研究仮説①

課題に対して一人一人が目標をもち、ゴールまでの道筋をつくることで、見通しをもって学ぶ子どもを育てることができるだろう。

①個別目標を立てる

- ・ 課題は教師が提示 (指導事項があるため)
*なんでも取り組みばよいわけではない！基礎が大事！
おさえるべきことはおさえる！*
- ・ 課題に対して
自分のゴールイメージをもつ
- ・ 単元で身に付けさせたい力を確認

自分に合った目標が
やりがいや喜びに

目標設定する力が身に付く

学び方、生き方につながる

研究仮説①

課題に対して一人一人が目標をもち、**ゴールまでの道筋をつくる**ことで、**見通しをもって学ぶ子どもを育てることが**できるだろう。

②ゴールまでの道筋をつくる

- ・目標達成までの手順、方法などをつくる（高学年）
- えらぶ・きめる（中学年、低学年、特別支援）

試行錯誤や失敗も経験に

最適な方法を見つける力

学び方、生き方につながる

研究仮説②

できた！わかった！成長した！を実感する手立てを講じることで、学ぶ楽しさや喜びを実感し、自ら進んで学ぶ子どもを育てることができるだろう。

③ふりかえり

- ・ 個別目標の到達度を確認
(ときには、できるまでチャンスを)
やりっぱなし× やらせっぱなし×
- ・ 実感できる問題づくりや、序盤の作品と見比べる等の手立て



成長を目に見える形に示す

喜びや達成感が楽しさに

自分で学びをデザインする力を身に付けて欲しい

2年次、まとめの研究として

提案授業、1学期の全校研を通して、

ほかにも **学びのデザイン** がないかを

探っていきたいと考えています。

2学期の全校研や公開研で提示し、

3学期に、本研究の完成形を目指したいです。

ぜひ、研究に対して、たくさんの意見をお願いします。

授業づくり (1年次のまとめ)

①単元の例

4. 単元計画と学習評価 (全8時間)

二等辺三角形・正三角形の性質をまとめ、作図する。

時	学習内容	学習評価 (知・思・主) (方法)
1 (副)	・単元の課題を知る。 ・二等辺三角形や正三角形の性質を調べ、まとめる。 ・二等辺三角形や正三角形の作図をする。	・図形の構成要素に着目し、二等辺三角形や正三角形の性質を理解すること
2	・二等辺三角形や正三角形の性質を調べ、まとめる。 ・二等辺三角形や正三角形の作図の仕方を説明する。	・既習の円の性質や、二等辺三角形や正三角形の意味や性質に着目して、作図の仕方や作図できた理由を考え、説明している。(思)
3	・二等辺三角形や正三角形の性質を調べ、まとめる。 ・二等辺三角形や正三角形の作図をする。 ・二等辺三角形や正三角形の作図の仕方を説明する。	・既習の円の性質や、二等辺三角形や正三角形の意味や性質に着目して、作図の仕方や作図できた理由を考え、説明している。(思)
4	・二等辺三角形や正三角形の作図の仕方を、円の性質を用いて考え、説明する。	・既習の円の性質や、二等辺三角形や正三角形の意味や性質に着目して、作図の仕方や作図できた理由を考え、説明している。(思)
5	・角の意味や角の大きさの相等や大小について調べ、まとめる。	・角の性質を振り返り、円
6	・二等辺三角形や正三角形の角の特徴を調べ、まとめる。	・二等辺三角形では、2つの角、正三角形では3つの角の大きさが等しいことを理解している。(知) <観察・ノート>
7	・二等辺三角形や正三角形を重ねて模様を作る。 ・円を使って三角形をかいて、模様を作る。	・二等辺三角形や正三角形の角の大きさを比較した結果
8	・学習の定着を確認する。	・基本的な問題を解決することができる。(知) <観察・ノート>

「学び」が主

「習得」が主

「学び」が主

単元の中に「学び」が主の時間と「習得」が主の時間を設定する

②1時間の例

7. 本時の学習展開 (1/8)

	児童の学習活動	評価口・留意点※
導入 10分	○図形 ○単元	児童が自分なりに整理できているか、児童が自分なりに整理できているか、児童が自分なりに整理できているか
展開 25分	○性質を調べたり、作図の仕方を考えたりする。 ・個人、ペア、グループいずれかの学習形態にする。 ・すでにもっている知識や教科書を活用する。 ・児童間で、できたこと・わかったことを共有したり、取り組みの助言を求めたりする。	児童が自分なりに整理できているか、児童が自分なりに整理できているか、児童が自分なりに整理できているか
終末 10分	○できたこと・わかったこと・できなかったこと・わからなかったことを発表し合い、取組の確認をする。 ○本時の振り返りをする。	児童が自分なりに整理できているか、児童が自分なりに整理できているか、児童が自分なりに整理できているか

子どもが「学び」だせる導入

えらぶ・きめる

20~40分

短時間で導入を行い、学ぶために十分な時間を保障する

授業づくり（2年次の形式）

提案授業 5月20日（月）
6－3本間学級にて

学びのデザインの具現化
指導案の形式 などを提案します。

今年度の研究スケジュール

大きな変更点

- ①公開研は、各ブロック（低、中、高、特）から一学級の公開。
- ②全校研は一つの授業を全員で参観を年3回実施。
- ③研修日を20回→14回に削減。

今年度の研究スケジュール案

	一学期			二学期			三学期	
取組	提案授業	全校研①	ブロック内公開①	全校研②	ブロック内公開②	公開研究会	全校研③	ブロック内公開③
通常 学級	研究部より 1クラス公開	高学年 1クラス公開	中学年 ブロック内で 1クラス公開	中学年 1クラス公開	低学年 ブロック内で 1クラス公開	各ブロックークラス公開 ※支援学級全体から ークラス公開	低学年 1クラス公開	高学年 ブロック内で 1クラス公開
			低学年 授業記録交流		高学年 授業記録交流			中学年 授業記録交流
特別支 援学級		カモカモ学級 1クラス公開	支援学級から 1クラス公開	ほのぼの学級公開 (実施に応じ隔年公開 など検討)	支援学級 授業記録交流			ステップアップ学級 1クラス公開

今年度の研究スケジュール案 イメージ

	(研究部 提案授業)	全校研①プレ授業	全校研①	公開研究会プレ授業	公開研究会	プロ内公開③プレ授業	ブロック内公開③
5-1			☆	○			
5-2				○	☆		
5-3		○					
6-1						○	
6-2							☆
6-3	☆					○	

研修日スケジュール案

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭
日	4/19(金)	4/25(木)	5/20(月)	6/17(月)	7/9(火)	8/28(水)	9/9(月)	10/7(月)	10/28(月)	11/19(火)	12/18(水)	1/15(水)	1/30(木)	3/10(月)
内容	年度初め提案	ロイロノート研修会	提案授業&事後研	指導案検討or授業記録交流	全校研1&事後研	指導案検討or授業記録交流	全校研2&事後研(二次訪問)	公開研指導案検討1	公開研指導案検討2	公開研前日準備	公開研振り返り	指導案検討&授業記録交流	全校研3&事後研	年度最終総括

教科、単元を
決めるときに

研究教科・領域

1年目 通常学級 → 国語・算数・理科・社会（4教科）

1月は試験的に、図工・体育も

支援学級 → 自立活動・生活単元学習
個別学習での教科指導

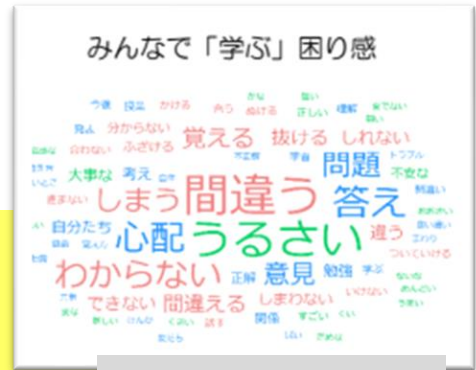
2年目…各教科

公開研とブロック研が、異なる教科も可
支援学級においても昨年度同様


共同研究です。
学年やブロックで、授業づくりをするということを大切にしてください。

参考にしてください

- 答えがはっきりとある学習については、
 - ①標準学力調査の算数科「基礎」の得点率が低下
 - ②右の児童アンケートの「間違う」「わからない」の2点から、本研究には不向きであるため、避ける。
- 算数の「数と計算」など教えるべき内容は、**習得に力を入れ、学ぶためのアイテムに！！**
- テーマ別や、データ収集などの学習内容は、児童に「えらぶ・きめる」場面があり、「間違える」心配もないため、おすすめ。



R5年度児童アンケート



教師側からの「教え」から
子ども自身の「学び」へ転換する
まとめの年度になります。

昨年、手探りながらも“やってみた”研究を生かし、
子どもの芽ばえてきた力を根付かせられるように、
今年度も教職員全体での取組をお願いします。

